

平成 26 年度東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修

(複合領域コース) 参加報告

三重大学工学部工学研究科技術部

○黒田陽一郎, 中村勝

kuroda@elec.mie-u.ac.jp

三重大学大学院生物資源学研究科付属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター技術部
上尾智洋, 吉田智晴

1. はじめに

平成 26 年 8 月 27 日(水)から 29 日(金)の 3 日間、名古屋工業大学にて東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修(複合領域コース)が開催された。10 機関 20 名がこれに参加し、本学からも 4 名が参加したため報告を行う。

2. 研修の内容

研修は「東海・北陸地区の国立大学法人等に所属する技術職員に対し、防災の最前線における技術情報を示すことにより、幅広い知識を得ること、関連技術に対する意識を高めること」を目的とし、図 1 の日程表に沿って講義・受講者職務紹介・施設見学が行われた。今回の研修では実習は行われなかった。

最初に名古屋工業大学の技術部組織に関しての講義があり、組織の歴史・現状・課題等が説明された。

次に受講者職務紹介が行われ、受講者それぞれが PowerPoint を用いて 5 分間で職務内容を中心に発表を行った。受講者からは組織全体の業務紹介から個人の趣味に至るまで様々な発表があった。研修の早い段階で受講者が互いの専門分野や趣味を把握できたことは、その後の交流に繋がる良いきっかけとなった。

その後は防災に関連する講義が続き、様々な災害の被害の実例や対策、関連技術が紹介された。中でも阪神大震災・東日本大震災での被害状況や、南海トラフ巨大地震への対策についてはほぼ全ての講義で取り上げられていた。図 2 の簡易模型では、振動周期の変化によってそれぞれの構造物がどのように揺れるかを見せていただいた。このように動画や実験を取り入れ、分かりやすく工夫された講義が多かったことも今後の参考になった。

平成26年度東海・北陸地区国立大学等技術職員合同研修(複合領域)日程表

日程: 平成26年8月27日(水)~8月29日(金)
会場: 名古屋工業大学11号館2階201号室

	第1日目 8月27日(水)	第2日目 8月28日(木)	第3日目 8月29日(金)
9:00	9:00 受付(11号館2階202号室)	9:00 講義-3 「通信インフラにおける災害対策」	9:00 講義-5 「地震災害の常識を理解して巨大地震に備える」
9:30	9:30 開講式 写真撮影・オリエンテーション	西日本電信電話株式会社 東海事業本部設備部 災害対策室長 中村好宏	名古屋工業大学 教授 前田健一
10:00	10:00 講義-1 「技術部組織に関する課題 -名古屋工業大学技術部運営 からみえるもの-」	休憩	休憩
10:30	名古屋工業大学技術部 次長 玉岡悟司	10:40 講義-4 「南海トラフ巨大地震と電力供給 について」	10:40 講義-6 「近年多発する豪雨災害 - 新記録の統計、推定と予測の違い」
11:00		名古屋大学 防災連携研究センター エネルギー防災寄附研究部門 准教授 都築充雄	名古屋工業大学 准教授 北野 利一
12:00	昼食	昼食	昼食
13:00	13:00 受講者職務紹介	13:00 施設見学 本学よりバスで移動 名古屋市港防災センター ・防災体験ツアー (所要:約90分程度) ・特別講座:防災トーク (所要:30~60分程度)	13:00 講義-7 「緊急地震速報を用いた大学防災」
14:00	パワーポイントを用いて職務内容を を含めた自己紹介を行う。 発表時間5分/人		愛知工業大学 建設システム工学専攻 准教授 小池則満
15:00	休憩		15:00 閉講式
15:30	15:15 講義-2 「震災から学ぶ耐震対策」		
16:00	名古屋工業大学 教授 井戸田 秀樹		
17:00	休憩・移動		
17:30	17:30 意見交換会 (会場 校友会館)		
18:00			

図 1 日程表

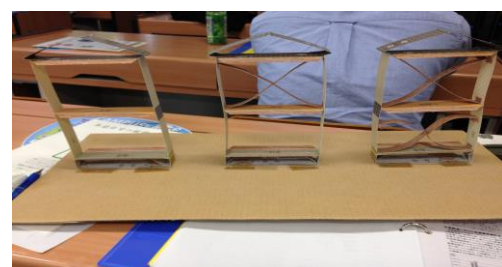


図 2 簡易模型

2日目に行われた施設見学では、バスで名古屋市港防災センターに移動し、防災体験ツアーに参加した。施設内には「地震体験室」・「伊勢湾台風を知る」・「煙避難体験」といった設備があり、それぞれ体験した。地震体験教室では一般家庭のリビングを模した部屋で、最高震度7の揺れが再現されていた。立っているのも困難な揺れの中で頭部を確実に守ること、ガス・電気等への対処を冷静に素早く行うことが要求され、普段から非常事態を意識していないと対処は難しいと感じた。それぞれの災害体験後には特別講座として防災トーク、また備蓄倉庫見学が行われた。倉庫では毛布や乾パン等の防災品としてよく目にする物に加え、アルファ化米や乳児用の粉ミルク等も大量に保管されていた。乳児は大人と違って我慢が利かないのでミルクが大量に保管してある、という話が印象的であった。どの物資もかなりの重量であり、使用する事態においては多くの人員が必要になることが予想された。見学後に設けられた質疑応答の際には、講師の方に対して受講者から数多くの質問が投げ掛けられ、様々な災害に対する対策の現状・課題を知ることができた。



図3 名古屋市港防災センター



図4 地震体験風景

3. まとめ

防災という身近なテーマでの研修であったことから興味深い内容が多く、自身も含め受講者の熱心に学ぶ姿勢が伺えた。大学という組織としての防災について考えさせられる講義もあり、防災設備の現状や非常時の対応を詳しく知っておく必要性を強く感じた。動画や模型を使用した講義は分かりやすく記憶にも残ったため、自ら実習等を担当する際には内容が受講者の印象に残る工夫を心掛けたいと思う。

また、講義や施設見学での質疑応答を通して、防災に関しては未だ多くの課題が残されていることを知った。被災時のトイレに関する対策が不十分であるという話もあり、意外であった。耐震技術や緊急地震速報、安否情報確認サービス等、聞き慣れた防災技術に関しても内容をしっかりと認識しておくことが大切であるように感じた。特に本学のある東海地方近辺においては、近い将来南海トラフ巨大地震の発生が予想されていることもあり、本研修は防災に関する技術への意識を高めるうえで大変良い機会となった。

4. 謝辞

講師をしていただいた名古屋工業大学の玉岡技術部次長、井戸田教授、前田教授、北野准教授、西日本電信電話株式会社の中村様、名古屋大学の都築准教授、愛知工業大学の小池准教授、またこの度の研修を取り仕切っていただいた名古屋工業大学の技術、事務職員の皆様には大変お世話になりました。紙面をお借りしまして厚くお礼申し上げます。